

平成27年度学校評価実施計画

学校名 大分県立大分豊府高等学校

前年度評価結果の概要	<p>1 世界標準の学力向上</p> <p>①高3進学状況：最難関6(10)、難関25(20)、国立計181(161)、国立合格率68%(59%)【現役のみ】()内はH26 高2GTZ(1月進研)：S1(7)S23(19)A1～B1(133)、高1GTZ(1月進研)S1(11)S23(42)A1～B1(149) → S1はまずまず、高2S23、高12A1～B1が未達成、上位対策及び生徒個々の学力に応じた学習指導システムの構築が必要</p> <p>②部活等の両立は測定調査が未確立(H27取組課題)、No部活日・試験前部活休止期間等の徹底により教員の意見としてはほぼできている → 引き続きNo部活日・試験前部活休止期間等の徹底、部活経営計画に基づく効率的部活動指導体制の構築が必要</p> <p>2 いじめの根絶(世界標準の人間力向上)</p> <p>①授業改善 授業アンケート結果より「授業がわかりやすい+どちらかというと分かりやすい」と回答した生徒94%、「授業に満足している+どちらかというと満足している」と回答した生徒91% アンケート結果はまずまずだが授業観察の印象はまだ十分ではない、「基礎基本の徹底と思考力等育成を図る授業改善の一層の推進が重要</p> <p>②③学校生活アンケート新設により生徒の状況把握が進み、学校生活に課題のある生徒等の早期発見・早期対応ができるようになった。重篤ないじめ事案はないが、ふざけ・からかい・無視等が数件あり(いずれも解決または現在改善中)</p> <p>3 業務の精選、効率化・平準化</p> <p>①いくつかの学校行事の削減を実施したが半減には至らず、次年度も引き続き検討。 ②分掌改革1年目、いくつかの領域ではミドルアップダウン体制が定着、全ての分掌での浸透が重要 ③ICT活用は想定を上回って達成</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標(H27年度)
創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育てる。	<p>1 中高一貫教育のあり方を研究し、6年間を通じて生徒を育成する教育指導システムを確立する</p> <p>(1) 世界標準の学力を育成する指導システムを確立する (2) 世界標準の人間力を育成する教育システムを確立する (3) 生きる力を育む進路指導システムの体系化を図るとともに、夢を叶える進学力を向上させる組織的対応システムを確立する (4) 安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>2 中学・高校の全教職員が協働して、正確、迅速、効率的に業務を遂行できる学校経営体制を確立する</p>	<p>1 世界標準の学力向上 2 いじめの根絶(世界標準の人間力向上) 3 業務の精選、効率化・平準化</p>

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
1 世界標準の学力向上(授業改善)	高12) 進研GTZ:S1(20)S23(40)A～B1(180)B2～(40) 高3) 最難関10(5)難関40(30)国立計220(185) ()内は現役のみ	自主的な学習体制の育成と最難関・難関大に挑戦できる学力を育成(羅針盤White)	高①6月(遅くとも8月)から高入生を含むチーム設置、学習会等開始 内進生の4・5月の指導方法の構築	進路教科
	「部活動と学習との両立ができている」と回答する生徒が80%以上(学習実態調査)	幅広い学力層に応じた授業(進度・評価)、課題等の指導体制確立(羅針盤Green)	H26度作成したシラバス、ループリックによる観点別評価を4月から実施、校内研修会(運営指導委員会を含む)に合わせて検証	教科統括 教務
		部活動経営計画・部活動年間指導計画の作成と実施	4月中に作成、学期毎に自己評価	特活 学年
2 いじめの根絶(世界標準の人間力向上)	「授業に自ら参加」「授業で自ら考える」生徒8割以上(言語活動等生徒アンケート(仮称))	言語活動の充実	全教科・科目で1単元あたり最低1回は言語活動を取り入れた授業を実施	教科統括 教科
	自主的に学習ができる生徒5割以上(職員アンケート)	生活計画表の作成指導 進路希望と連動した学習時間調査の実施	年3回程度生活計画表作成、きせきノートによる生徒指導、年3回の面談旬間実施、年4回学習時間調査(全校対象)	進路 学年
	安心して学校生活が送れていると回答する割合80%以上(学校生活アンケート)	学校生活アンケート等による早期発見・早期対応	いじめ調査年2回、学校生活アンケート年3回実施	指導 相談
3 業務の精選、効率化・平準化	「中高の連携ができている」職員8割以上(職員アンケート)	運営委員会の機能見直し、中高別企画会議設置、中高拡大PJ見直し	4月中に着手し運営委員会が協議、遅くとも2学期から実施	管理職 運営委員会
	「業務が効率的に遂行されている」職員8割以上(職員アンケート)	領域制度の徹底(領域主任による進行管理、係長による企画運営)	年度初めに分掌経営計画・分掌業務計画作成、学期毎に自己評価	校長 教頭
		ICT活用力の向上(Webアンケート・OEN活用、e-office利用徹底)	紙ベースアンケートO OENメール・ドライブ・e-office毎日確認の徹底	教務(情) 教頭